

連載 **今日は バスday!** 5

問 都市交通政策課 (☎025-226-2753)

ファミリー編 夏休みは家族みんなで楽しくお出かけしよう!

「子どもツアーコンダクター」になってみませんか?
夏休みを利用して自分でバスの乗り方を調べ、ルートを考える「子どもツアーコンダクター」にチャレンジしてみませんか。バスに乗るときのマナーを学べたり、夏休みの自由研究にしたりすることもできます。路線バスに乗って楽しい夏の思い出づくりに出かけましょう。

【子どもツアーコンダクターのやり方】

- ①行きたい場所を決める
- ②バスの乗り方を調べる
- ③自分だけのバスマップを作る
- ④家族みんなでお出かけ
- ⑤思い出写真や体験を日記に書いて家族とシェア

お役立ち情報

にいがたバス乗換案内サイト
路線バスの時刻や運賃を簡単検索!

予告
8/24日
「バス無料デー」開催決定!
※詳しくは新潟市ホームページに掲載

バスの歴史博物館 「県内初のバスステーション」
昭和26(1951)年、現在の新潟テレコムビル(中央区万代4)の場所に「県内初」のバスステーションが建設されました。郊外線の発着を鉄道の駅のように1カ所に集約し、待合室や案内所を備え、イベントステージもありました。昭和48(1973)年、万代シティバスセンターが開業し、バスステーションは役目を終えました。

▲バスステーション
(写真:新潟交通株式会社)

考えてみませんか // 公共施設のコレカラ

学校や公民館などの公共施設の老朽化が進んでいます。新潟市内の公共施設は915施設あり、これらの多くは昭和50年代以前に建てられたものです。人口減少による厳しい財政状況や、社会ニーズの変化が進む中、これからの時代に合った施設の在り方を考えていく必要があります。

新潟市は、公共施設の現状と課題について地域の皆さんと意見交換をしています。現在開催中の「市長とすまいるトーク」のほか、今後は地域コミュニティ協議会へ説明していくなど、より良い公共施設を未来へ引き継ぐための取り組みを進めます。

※市長とすまいるトークについては新潟市ホームページに掲載

問 財産活用課 (☎025-226-2386)

年代別公共施設割合

全体 915
405
約45%が昭和50年代以前に建築!

公共施設のこれからはみんなで考えていかなきゃ!

詳しくはこちら

こどもを授かりたい人を応援します

こどもを授かりたい夫婦の経済的負担を軽減するため、不妊治療費の一部を助成します。

問 こども家庭課 (☎025-226-1205)

不妊治療にかかる費用を助成

対象者
申請時点で次の要件を全て満たす人
・夫婦である(事実婚を含む)
・新潟市に住民登録がある

対象の治療
①保険診療で受けた不妊治療
・一般不妊治療(タイミング法、人工授精)
・生殖補助医療(体外受精、顕微授精、男性不妊治療)
②保険診療と併用して実施した先進医療

助成額
夫・妻それぞれの対象費用の自己負担額の2分の1
・①は年間4万円まで
・②は年間3万円まで

申し込み方法
治療を受けた年度の3月31日までに専用サイト=右=から申し込み
※詳しくは新潟市ホームページに掲載

1人年最大7万円の支援が受けられます

申し込み専用サイト
詳しくはこちら

小まめに水分・塩分補給をしましょう